

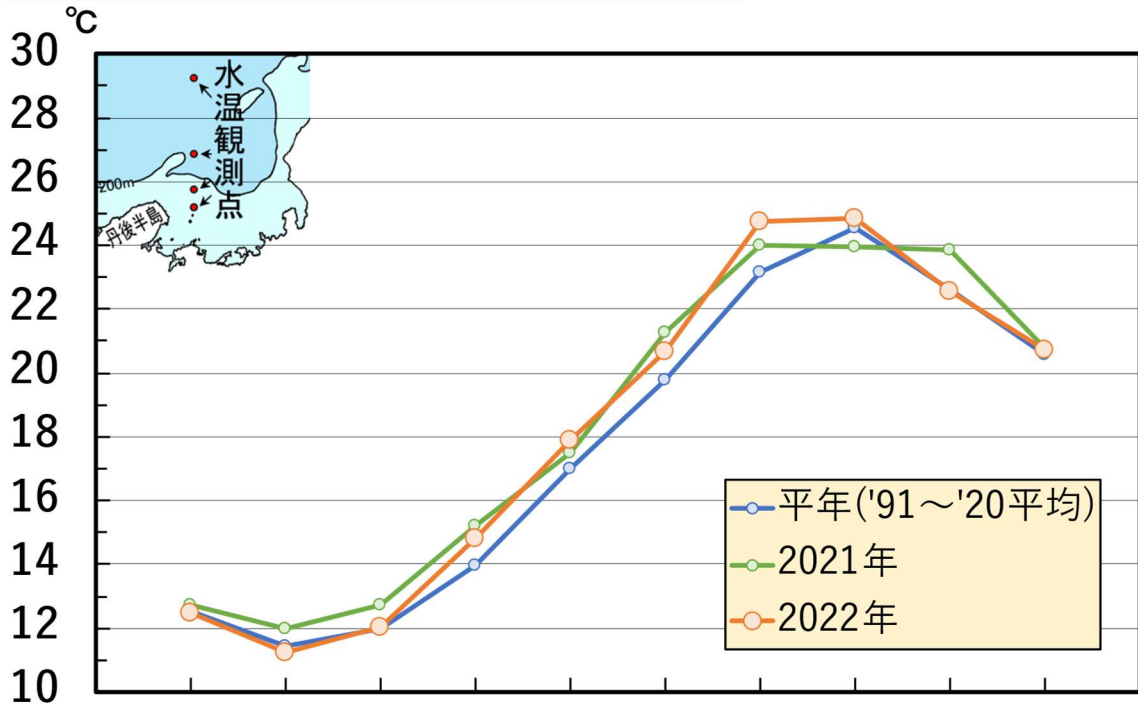
京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 研究部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況 ～2022年1月から12月まで～

表層の水温は、3月及び4月は平年並み、5～8月は平年よりやや高め～かなり高め、9～11月は平年並みで推移した。

京都府沖の表層水温（0～50 m 深平均）



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

単位：℃	水温	平年差	評定
1月			観測なし
2月	12.5		データ過少につき評定なし
3月	11.3	-0.1	平年並み
4月	12.1	+0.1	平年並み
5月	14.8	+0.8	かなり高め
6月	17.9	+0.9	やや高め
7月	20.7	+0.9	やや高め
8月	24.7	+1.6	かなり高め
9月	24.9	+0.4	平年並み
10月	22.6	0.0	平年並み
11月	20.7	+0.1	平年並み
12月			観測なし

≪漁模様 2022年1月から12月まで≫

【定置網漁業】

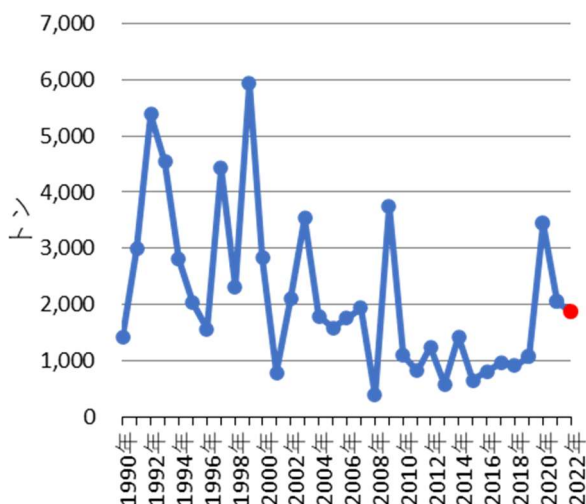
マイワシが平年の6.8倍（前年の7.1倍）、サバ類が平年の2.5倍（前年の1.1倍）と好調でした。一方、サワラは平年・前年ともに7割弱、イカ類は平年・前年ともに7割弱、マアジは前年を上回ったものの平年の7割弱と低調でした。全体では、平年の1.2倍（前年の1.4倍）とやや好調でした。

年間漁獲量（上位10魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2022年	2021年(前年比)	平年(平年比)	備考
マイワシ	3739.2	524.5 (713%)	553.8 (675%)	<サワラ銘柄別> さわら大(3kg以上): 93.3トン さわら(2-3kg): 139.8トン さわら中小(1.5-2kg): 76.8トン さわら小(1-1.5kg): 92.8トン さごし(0.4-1kg): 490.0トン やなぎ(0.4kg未満): 159.9トン <ブリ銘柄別> ぶり: 207.7トン まるご: 27.2トン はまち: 83.3トン つばす: 616.4トン <イカ類> アオリイカ(秋いか): 113.1トン ケンサキイカ(白いか): 65.6トン ヤリイカ(冬いか): 15.6トン スルメイカ: 8.0トン ソデイカ(たるいか): 5.9トン など
カタクチイワシ(たれ)	1862.9	2058.0 (91%)	2239.2 (83%)	
サワラ	1052.7	1603.1 (66%)	1564.9 (67%)	
ブリ	934.6	666.6 (140%)	1075.8 (87%)	
サバ類	610.1	567.5 (108%)	245.9 (248%)	
マアジ	530.4	375.6 (141%)	786.1 (67%)	
イカ類	214.4	312.9 (69%)	320.4 (67%)	
シイラ	195.0	255.5 (76%)	236.2 (83%)	
カマス	165.3	66.8 (248%)	203.5 (81%)	
トビウオ	165.0	75.8 (218%)	165.0 (100%)	
その他	963.2	1075.7 (90%)	1156.0 (83%)	
合計	10432.7	7581.8 (138%)	8546.8 (122%)	

※平年：2012-2021年

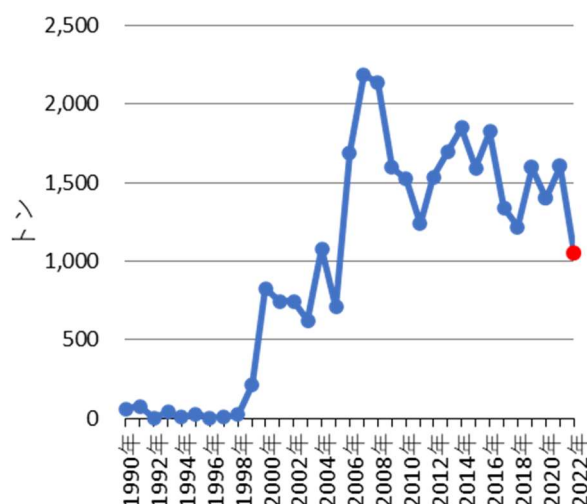
<主要魚種の漁獲量経年変化>

カタクチイワシ



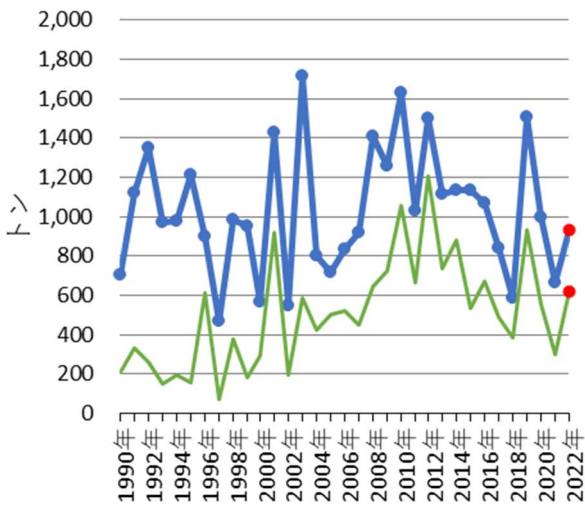
近年では比較的高い漁獲量でしたが、前年を下回りました。（ただし、混じって水揚げされたカタクチイワシ以外の小魚もまとめています）

サワラ



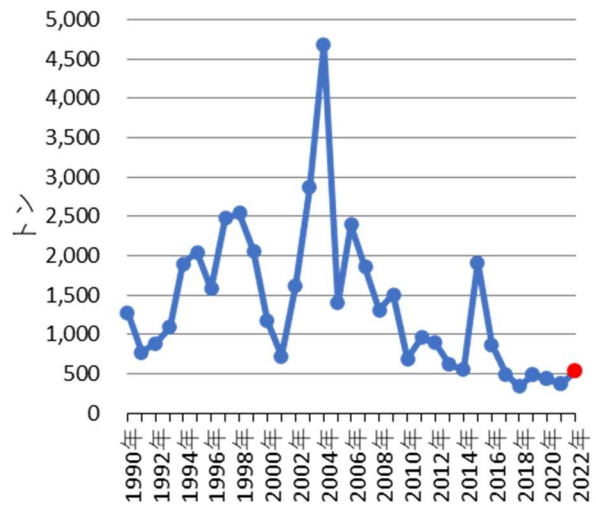
漁獲量は2000年代から急増し、現在も好調を維持していますが、前年を500トン以上下回りました。

ブリ（緑線はつばす銘柄）



漁獲量は平年を下回りましたが、前年を上回りました。

マアジ



漁獲量は2004年以降減少しており、平年を下回りました。

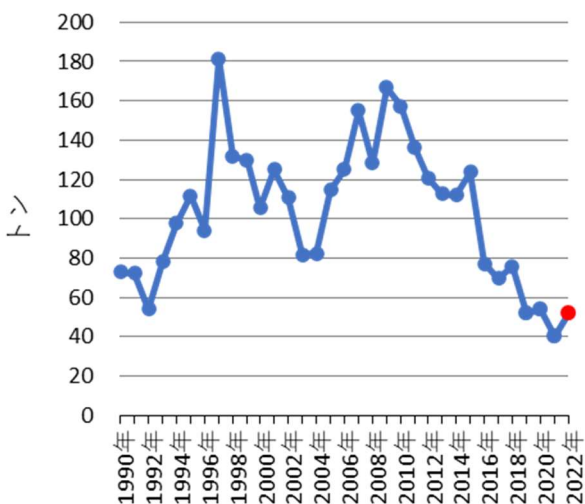
【底曳網漁業】

全体の水揚量は、平年の8割弱（前年の1.1倍）でした。

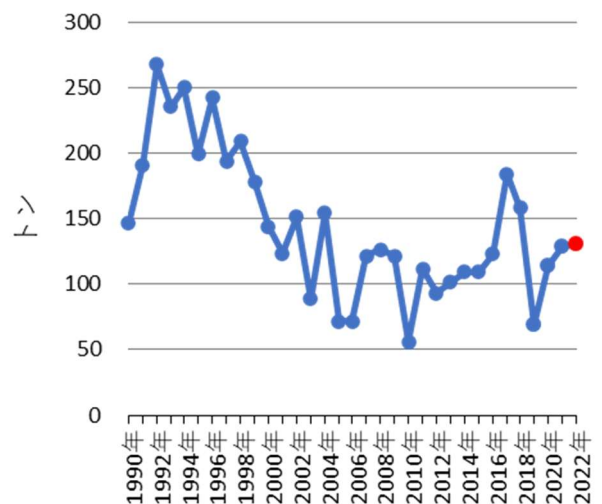
年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2022年	2021年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖ぎす)	131.0	129.0 (102%)	119.1 (110%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい): 52.2トン ソウハチ(えてがれい): 16.1トン ヒレグロ(くろがれい): 6.4トン など
カレイ類	78.6	66.2 (119%)	131.7 (60%)	
ズワイガニ	66.3	50.1 (132%)	65.0 (102%)	
タイ類	12.9	13.7 (94%)	17.7 (73%)	<ズワイガニ>
ハタハタ	11.2	4.2 (266%)	42.6 (26%)	雄: 27.2トン、雌: 39.1トン
その他	48.3	20.7 (233%)	43.1 (112%)	<タイ類> キダイ(連子鯛): 7.8トン マダイ: 3.2トン
合計	348.3	310.2 (112%)	455.0 (77%)	など

<主要魚種の漁獲量経年変化>

アカガレイ（底曳網）



ニギス（底曳網）

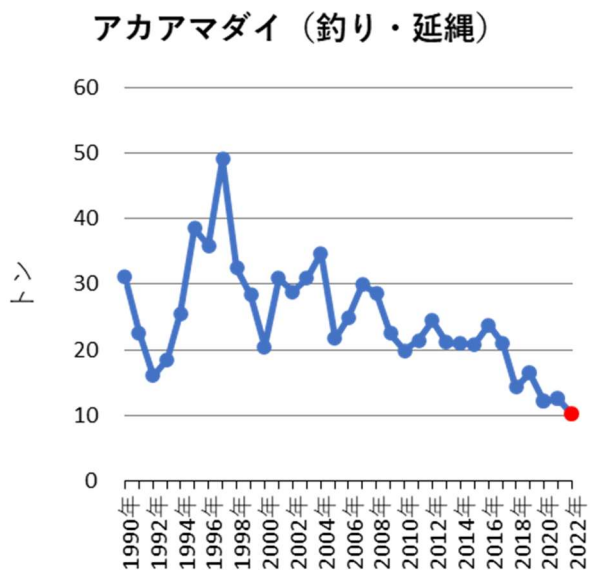
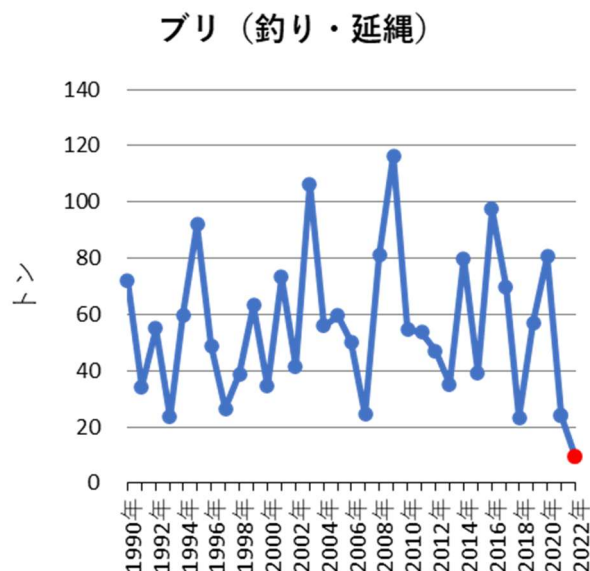
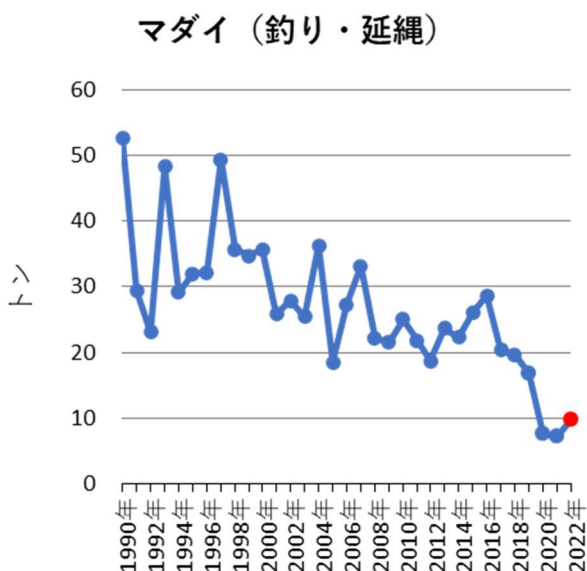


【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、平年の5割強（前年9割弱）でした。

年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計					
魚種	2022年	2021年(前年比)	平年(平年比)		備考
タイ類	25.6	26.2 (98%)	32.3	(79%)	<ブリ銘柄別> ぶり: 1.9トン まるご: 2.6トン はまち: 3.9トン つばす: 1.0トン <イカ類> スルメイカ: 7.5トン ソデイカ(たるいか): 8.3トン ケンサキイカ(白いか): 0.8トン アオリイカ(秋いか): 2.2トン など
イカ類	19.8	23.7 (83%)	58.2	(34%)	
メバル類	15.0	10.9 (138%)	12.9	(116%)	
アカアマダイ(ぐじ)	10.1	12.6 (81%)	18.7	(54%)	
サワラ	9.8	14.9 (66%)	16.1	(61%)	
その他	38.8	13.1 (297%)	19.1	(204%)	
合計	119.2	137.0 (87%)	222.5	(54%)	

<主要魚種の漁獲量経年変化>



【2022年に皆様から提供していただいた珍しい魚】

ハナイカ	ギス
<p>3月17日 宮津なまこ桁曳漁業者より 約7cm</p>  <p>南方系のコウイカの仲間。山陰沖日本海（島根・鳥取・兵庫）における分布は確認されているようです。</p>	<p>10月20日 底曳船「愛新丸」より 約48cm</p>  <p>日本近海では200m以深に広く分布しますが、日本海では比較的少ない魚です。</p>
ギンカガミ	ホシフグ
<p>11月3日 栗田生産小田事業所より 約20cm</p>  <p>南日本、インド・太平洋域に分布し、内湾など沿岸浅所に生息しています。</p>	<p>1月18日 栗田生産小田事業所より 15cm</p>  <p>2022年12月下旬～1月にかけて日本海各地の沿岸に大量漂着しています。京都府においても同時期に定置網への大量入網や沿岸への漂着が確認されています</p>
逆位（右向き）のヒラメ	
<p>2月5日 成生水産より 約40cm</p>  <p>過去には2007年に府内で約30cmの個体が漁獲されています。また、2月には福井県でも漁獲されたという情報がありました。天然・放流問わず、まれに逆位のヒラメが出現するようです。</p>	

近頃、これまで見かけなかった南方の魚が獲れる事例が増加しており、2023年に入ってから珍しい魚が届いています。見慣れない海の生き物を発見された場合には、当所までご一報いただくと幸いです。